

## 2019年7月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 今月の基調判断も、2月以降の「道北地域の景気は、緩やかに持ち直している」との判断を継続しました。
- 需要項目ごとの動きも、観光を引き上げた前月から、その後の変更はありません。観光は回復していますが、個人消費はやや弱めの動き、また、公共投資は下げ止まっていますが、住宅投資は減少しています。
- この間、雇用面では、労働需給がタイトな状況が続いています。金融機関の貸出も前年を上回っています。

### ■個人消費の動向

- 大型店売上高は、6月も前年を下回り、9か月連続の前年割れとなりました。降水日数は平年と変わらず（旭川市の1日1mm以上の降水日数は平年比▲0.1日）、気温も平年より若干高めな程度（旭川市の平均気温で平年比＋0.8度）でしたが、今年の土日祝日の休日数は前年より1日多く、売上高のプラス材料となったものの、それだけでは前年割れを解消できませんでした。この間、4～6月期でも前年割れとなりましたが、マイナス幅は2期連続で縮めています。
- 6月の新車登録台数は、除く軽で前年を上回りましたが、軽自動車は前年を下回り、合計でも前年をやや下回りました。四半期ベースでは、昨年半ばから前年比プラスとマイナスが交互に入れ替わる展開です。4～6月期は、4月の好調から前年比プラスに浮上しています。

## ■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、6月は女満別、稚内空港で前年を下回りましたが、旭川、紋別空港が前年を上回り、全体で8か月連続の前年比プラスとなりました。旭川空港の国際線でも、本年、前年とも臨時便、チャーター便がない中、定期便での旅客数が大幅に増え、前年を3倍以上、上回りました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、6月、10連休となったGWの反動もあり、前年を下回りました。また、旭川市内のホテル客室稼働率も前年を下回りました。もっとも、4～6月期で括ると、ホテル・旅館宿泊客数は5期振りの前年比プラスに転じているほか、旭川市内のホテル客室稼働率も3期連続の前年超えとなっています。
- 各地観光施設の入込みは、6月、網走監獄、ウトロ温泉が前年を上回ったものの、ウェイトの大きい旭山動物園が前年を下回ったほか、層雲峡地区、利尻・礼文フェリーも前年を下回り、全体でも7か月振りに前年を下回りました。もっとも、4～6月期では、GWの好調から前年を1割ほど上回り、2期連続の増加となりました。

## ■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、6月は、宗谷が前年を上回ったものの、上川、オホーツクが前年を下回り、全体で前年を下回りました。19/4月以降の年度初来累計では、3総合振興局とも前年を下回り、全体でも前年を下回りました。

## ■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、5月、持家が6か月連続の前年比増加となりましたが、貸家、分譲が前年を下回ったため、全体でも2か月連続の前年比減少です。

## ■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、5月、上川、宗谷で前年を下回りましたが、オホーツクが前年を大きく上回り、3 総合振興局合計でも前年を上回りました。

## ■農業

- 農業は、上川、オホーツクとも、平年より生育が遅れがみられる作物はありません。その中で、上川では秋まき小麦が平年より早く生育が進んでいるほか、オホーツクでは水稲、秋まき・春まき小麦、馬鈴薯、てんさいが平年より進んでいます。

## ■雇用

- 雇用状況は、引き続きタイトな状況が続いています。5月の有効求人倍率は、旭川をはじめ、北見、網走で前年を下回りました。もっとも、北見では1倍台を回復し、再び4職業安定所とも1倍台に乗せています。5月の新規求人数も、稚内を除き、旭川、北見、網走で前年を下回りましたが、4つの職業安定所を合計した新規求人数では、前年を上回って推移しています。

## ■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3 総合振興局管下における金融機関貸出残高は、6月、4か月連続で、前年を上回りました。
- なお、旭川市内銀行等貸出約定平均金利（月末）では、このところ短期が底這う中、長期は低下を続け、両者の金利差は6月末で0.023%ポイントまで縮小しました。

## ■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、引き続き、

①予想される国土強靱化関連や災害復旧工事等の公共工事について、人手不足の問題を抱える建設業者が受注を増やしていけるかどうか、また、②日本全体の輸出・生産や企業マインド面に海外経済の減速の影響がみられる中での今年度設備投資の推移や、③秋に消費税率引き上げを控える中での消費動向と捉えています。

以 上